

# 東京大学大学院経済学研究科所蔵「新渡戸稲造旧蔵書」について

## — その概要と特徴 —

設 楽 舞

### 1. はじめに

大正 12 (1923) 年 9 月 1 日に発生した関東大地震により、東京大学の多くの施設が損壊、炎上し大きな被害を受けた。これは図書館も例外ではなく、経済学部の図書資料は、アダム・スミス文庫など一部を除いて軒並み焼失した。本稿で紹介する「新渡戸稲造旧蔵書」(以下「新渡戸図書」と記す)は、この関東大地震による惨事を受けて、新渡戸稲造が東京大学経済学部に寄贈した蔵書 283 冊のうち、現存する 281 冊の洋書から成る。本稿は当該コレクションの書誌事項を検討することを目的とするが、その前に、新渡戸と東京大学経済学部との関わりについて簡単にまとめておく。

新渡戸と東京大学との関わりで最も知られているのは、新渡戸が旧制第一高等学校の校長であったことである。しかし、新渡戸は経済学部誕生とも関わりが深く、現在行われている授業「国際経済」は彼の殖民政策講座の流れを汲むものである。また、本学部の貴重図書であるアダム・スミス文庫は、学部設立を祝って新渡戸から贈られたものであった。

大正 7 (1918) 年 12 月 6 日に大学令が公布され、翌年 4 月、東京帝国大学のそれぞれの分科大学は学部へと改編するに至った。これを受けて、同月、旧法科大学の経済学科及び商業学科の両学科が独立し経済学部が誕生した。その際、旧法科大学教授であった新渡戸稲造は、経済学部誕生と同時にそのスタッフ

に名を連ねることとなった。当時ドイツに学んだ教官が多数を占める中で、札幌農学校を出てアメリカで学んだ新渡戸の授業は「リベラルで実証的」であり、多くの学生にとって新鮮に受け止められたと言われている<sup>1</sup>。

これを遡ること二十数年、日清戦争の勝利を受けて、日本が台湾に総督府を設置したのは明治 28 (1895) 年のことであった。当時、新渡戸は札幌農学校において教授を経て教頭と学監とを兼任していた。男女の別なく貧しい者のために無料で開講した遠友夜学校の運営など生活は多忙を極め、息子の夭折といった不幸も重なり神経衰弱を病む。明治 30 (1897) 年、転地療養のためにアメリカに渡った新渡戸は、体調も落ち着き、幾つかの論文や著作を発表し、この時、代表作である“*BU SHIDO—the soul of Japan*”も執筆している。そして、同じ頃、台湾総督であった児玉源太郎と民政長官後藤新平は新渡戸に、糖業政策を刷新するために台湾に来るよう要請を始めている。やがて台湾への出向を承諾した新渡戸は、欧米諸国とその植民地を視察の後、明治 34 (1901) 年 1 月に台湾総督府技師、5 月に台湾総督府民生部殖産課長、さらに 11 月には同部殖産局長心得に就き、それ以後およそ 3 年間、台湾の糖業開発に従事することとなった。

その後、台湾で実績を積んだ新渡戸は、明治 36 (1903) 年から京都帝国大学法科大学で「殖民論」、さらに明治 39 (1906) 年東京帝国

大学農科大学で「拓殖政策」、明治 42 (1909) 年からは同法科大学で「殖民政策」を講じ、所属が経済学部が変わってからも殖民政策講座担当を続けている。この講座は新渡戸以降、河津暹、矢内原忠雄<sup>2</sup>、楊井克巳と引き継がれていくが、戦後になると国際経済論講座と名称が変わった。後に同講座の担当となった川田侃は、恩師矢内原を通して自分もまた新渡戸の影響を強く受けていたと振り返り、その授業の特徴を次のように述べる。

その第一は、植民政策論をあたかも植民地を統治する術のように考えていた同時代の他の同学者と異なり、新渡戸先生の植民政策論が徹底して「人格尊貴の観念」にもとづくものであったということである。新渡戸先生は「力」をもって植民地を征服することの正当性をしりぞけるとともに、「一身を投じて原住民の為に尽すこと」をもって植民思想の根源とすべきことを説き、「植民政策の原理は強いて一言にして言えば、原住民の利益を重んずべしということであろう」と述べておられる。第二に、講義の展開に当って、新渡戸先生が植民的事実の個別的把握、その実態の解明を重んじ、活き活きとした現実的事象の説明を通して、学生に真理追求、理念追求の目を開かせる方式をとられたことである。<sup>3</sup>

しかし、経済学部創設の翌年の大正 9 (1920) 年、国際連盟設立に伴って日本が常任理事国になると、新渡戸はその事務次長に招聘されることとなる。法科大学に着任して約 10 年間、東京帝国大学で殖民政策学の基礎を築き、また「殖民学会」の設立にも中心的な役割を担ってきた新渡戸は、事務次長就任後も形式上は本学教授在職のまま、当時連盟事務局が設

置されていたロンドンへ渡る。ちなみに、この間にロンドンの古書肆で購入し本学部に寄贈したのが、先述したアダム・スミスの旧蔵書<sup>4</sup>である。

このように、教育の現場や台湾での糖業開発、そして国際連盟での仕事など、広く実践の場において活躍し続けた新渡戸であったが、その思想形成を理解するためには、彼の蔵書の全容を把握することが不可欠であろう。

新渡戸図書を所蔵している機関としては、次の 3ヶ所がよく知られている。1つは十和田市立新渡戸記念館であり、2つ目は北海道大学附属図書館の新渡戸稲造文庫<sup>5</sup>、そして、3つ目は東京女子大学図書館新渡戸稲造記念文庫<sup>6</sup>がある。そして、この度、東京大学経済学部はこれらに続く 4番目の所蔵機関として数えられることになる。当該コレクションは他所蔵機関と比べて分量的には少ないものの、生前彼の意志によって贈られたものであり、彼の考えが反映されて選び出されたという点においても大変興味深い蔵書群と言える。

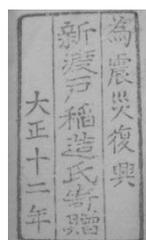


写真 1 寄贈印

後述するように、本コレクションは、これまで東京大学経済学図書館及び東京大学総合図書館のそれぞれの一般書架に混排されていたが、資料室の移転を経てそのほぼ全てを抽出し、平成 23 (2011) 年 12 月、図書委員会の審議を経て準貴重図書に指定された。

## 2. 概要

続いて、このコレクションの概要と特徴について述べる。

### 2.1. 受入日・冊数

新渡戸稲造図書の全てには「為震災復興 新

渡戸稲造氏寄贈「大正十二年」の押印がある(写真1)。『東京大学附属図書館受入原簿』によれば、大正13(1924)年3月31日付で231冊、続いて同年12月15日付で52冊、合計283冊の洋書が、当時の経済学部研究室主任代理大内兵衛の名前で、経済学部へ受け入れられたことがわかる<sup>7</sup>。このうち2冊については、原簿にそれぞれ「本館備」という印が捺され、当時「本館」と呼ばれていた現在の総合図書館に排架されていた<sup>8</sup>。また、新渡戸図書の一部は受け入れの段階で既に合冊されており、書誌上の総点数は296点となる<sup>9</sup>。

続いて、このような背景を持つ新渡戸図書の構成、どのような構成となっているのかについて示していきたい。

## 2.2. 構成

ここでは、新渡戸図書の構成を、本文言語、刊行年、内容という3つの視点から分析する。言語と内容については、当時の新渡戸の関心の所在を知るだけでなく、経済学部への寄贈意図を少なからず反映している点からも重要である。また、刊行年については、新渡戸の蔵書蒐集の実態を知るための基礎データとなるだろう<sup>10</sup>。

表1. 本文言語

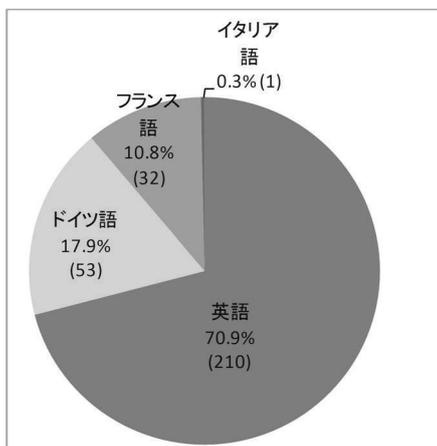


表2. 刊行(刷)年別

年(刷年)	点数	年(刷年)	点数	年(刷年)	点数
1861	3	1894	3	1907	19
1872	1	1895	4	1908	11
1881	2	1896	3	1909	27
1884	2	1897	3	1910	8
1885	1	1898	6	1911	18
1886	3	1899	6	1912	20
1887	2	1900	15	1913	11
1888	5	1901	10	1914	17
1889	1	1902	10	1915	6
1890	2	1903	8	1916	4
1891	2	1904	9	1917	9
1892	2	1905	14	1918	1
1893	5	1906	14	不明	9

表3. 東京大学経済学図書館洋書主題分類表<sup>11</sup>に拠る構成

分類	点数	
1	General Studies (incl. General Economic)	1
2-A	Miscellaneous (incl. Methodology)	2
4	World Economic History and Conditions	2
6-1-A	Germany: Economic History	1
6-3-A	Great Britain and Ireland: Economic History	5
6-4-A	Other European Countries: Economic History	1
7-A	America: Economic History	8
8-A	Asia and Arabian Countries: Economic History	26
8-B	Asia and Arabian Countries: Economic Conditions	10
9-A	Africa: Economic History	11
9-B	Africa: Economic Conditions	1
10-A	Australia and New Zealand: Economic History	4
11	Primitive Industries (incl. Food, Food industry, Hunger, Agribusiness)	1
12	Industry and Industrial Policy (incl. Mining, Technology)	1
13	Commerce and Commercial Policy (incl. International Economics)	4
14	Communication and Transportation	1
14-A	Economic Geography and Theory of Localization (incl. Real Estate, Tourist)	3
21	Social Problems (incl. Economic Welfare, Social Security)	5
21-A	Rural Labour Problems	1
22	Socialism (incl. Marxism)	2
24	Colonies and Colonial Policy, Third World	164
28-A	Management	1
34	General Studies and Series	1
46	Social Statistics	1
79	Sociology	1
80	General History	3
81	Politics	24
85	Periodicals	11

ここに掲げる3つの表<sup>12</sup>は、主に東京大学OPACの書誌情報、および現物の確認に拠って作成したものである。

表 1 は、新渡戸図書それぞれがどのような本文言語で構成されているかを示したものである。最も多いのは英語であり、全体の 70.9% を占める。次にはドイツ語が 17.9%、フランス語が 10.8% と続き、1 点のみイタリア語の図書が含まれている。新渡戸が複数の言語に堪能であったことはよく知られているが、この蔵書構成からもそのことが読み取れる。

また、新渡戸は青年期にアメリカとドイツに留学し、それぞれの大学で名誉学士や博士号を取得した。フランス語については後年になってから個人教授を付けて学んだとの記述が見える<sup>13</sup>が、この図書からは、早い時期にも学んでいた形跡が見られる。フランス語で書かれた図書 32 冊のうち、刊行年がわかっているもののなかで最も古い図書は 1872 年であり、新しい図書でもその刊行年は 1915 年であった。この 1872 年刊行の図書の標題紙には「Inazo Ota Washington D.C. iv 29. '87」と書かれており、新渡戸が叔父太田時敏の養子であった 25 歳の時には、既にフランス語で書かれた本を読んでいたようである。また、後述するが、新渡戸図書には署名とともに多くの書き入れがあり、それらの多くは複数の言語で記されている。このことも新渡戸が語学に長けていたことの表われと言えるだろう。

次に新渡戸図書全体の刊行年の冊数を示したのが表 2 である。ここでは OPAC の書誌情報に依拠し、原則として出版年を採ったが、その情報中に刷年の注記があるものについては、原本を確認の上で刷年を採用した。また、中には刊年や刷年などの印字がなく、現時点で時期を特定できないものもあり、それらは不明とした。

また、表 3 は東京大学経済学図書館の洋書主題分類表に従って、新渡戸図書の構成を示

したものである。分類 24 の植民地に関する図書が全体の 296 点のうちの 164 点であり、55.4% を占めているのが判る。そして分類 8-A アジア経済史、分類 81 政治学の分野が続く。

表 2 によって刊行年の推移を概観すると、1900 年以降から冊数が増加しているのが判る。1900 年は先に述べた通り、新渡戸が台湾への出向を承諾した翌年である。よって、新渡戸図書にはこの出向に際して、彼が入手した文献が集められている可能性が高い。もちろん刊行年がそのまま新渡戸が図書を入手した時期であるとは言えない。ただし、これについては、新渡戸図書には標題紙や本文中に日付が書き入れられているものも多くあり、今後、こうした書き入れを精査することにより、入手時期や読書時期がより詳細に特定できるものと思われる。

また、刊年と書き入れた日付の双方を比べると、図書が刊行されてから 1~2 年以内に新渡戸がその本を入手していることが判る。つまり新渡戸にとって古典籍の類というよりは、同時代の研究書が中心となるコレクションであり、内容的には主に新渡戸が大学で担当していた講座に関係するものであった。

以上、新渡戸図書の概要と構成を簡単に記したが、次章では、このコレクションについて、特に署名、書き入れおよび蔵書印に注目して、その特徴の一端を紹介したい。

### 3. 特徴—署名と書き入れ、蔵書印影

新渡戸図書は英文から和文まで様々な署名や書き入れ、さらには様々なデザインの蔵書印が確認できる。まず、署名と書き入れについてみていく。

### 3.1. 署名と書き入れ

新渡戸の署名の多くは標題紙中央に比較的大きく書かれており(写真2)、筆記用具の特徴を確認した限りでは、万年筆の使用が多く、インクは黒や紺、時には赤も使用されている。そして、英文で書かれた名字やフルネーム、漢字で書かれたもののほか、珍しいものでは、新渡戸が叔父の養子となっていた9歳から27歳までの間に使用した太田姓の署名もある。これらいずれかの署名が確認出来る図書は全体の21.2%である63点であり、なかには署名とともに本の入手地と思われる地名や日付が明記されているものもある。日付の書き入れは途中頁や最終頁にもあり、おそらく読み進める毎に日付を記入していったのであろう。このように日付、文字や数字、ラインや記号を含め、何らかの書き入れがある書籍は、全体の34.1%である101点であった。



写真2. 署名と蔵書印

書き入れは、鉛筆や色鉛筆、数色のペンや万年筆など複数の筆記具でなされている。文字は日本語よりも英語やドイツ語など外国語が使われることが多い。さらに記号も感嘆符、疑問符などさまざまな記号が使用され、サイドラインや下線、波線といった複数種類のラインも入り混じっている(写真3)。これらの書籍は長年、一般書架に排架されていたため、こうした書き入れが本当に新渡戸本人による

ものなのか、ということが問われるかもしれない。これについては、大内兵衛による以下のような証言がある。

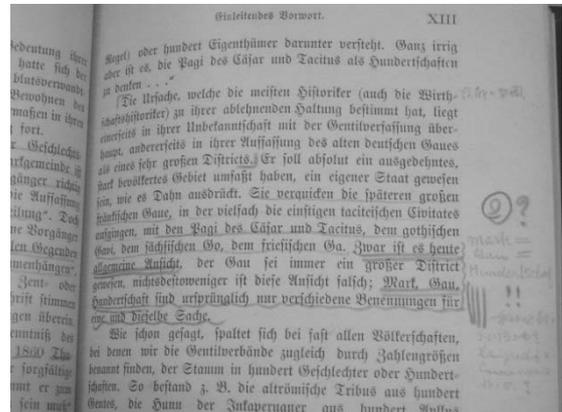


写真3. 書き入れ

私はまた新渡戸稲造先生にも、その演習に参加して読書の方法を教わった。先生はむしろ蔵書主義であった。そしてこういった。本をよむときは必ず青・赤の鉛筆をもて。そしてアンダーラインとサイドラインを本にできるだけきれいに引け。そのラインが何を意味するかは自分できめよ。例えば、青は文章の妙、赤は論旨の重要、サイドラインの長いのは再読を要するところ、短いのは他日必要ができれば引用する価値あるところという風に。その外に、私は新渡戸先生から本の開け方や筋目のつけ方についても教わったが、それは教養ある西洋の家庭での子供の躾であったろう。後年新渡戸先生のおどろくべき量の蔵書を、私はあちこち探検する機会をもったが、その本にのこっている先生の読書のあとにより、先生は、右の心がけを実行していたことを確認した。<sup>14</sup>

大内によれば、新渡戸は書き入れに独自のルールを持っていたようである。「例えば、青は文章の妙、赤は論旨の重要、サイドライン

の長いのは再読を要するところ、短いのは他日必要ができたなら引用する価値あるところという風に」と授業で紹介されているが、確かにこれに当てはまりそうな書き入れは、このコレクション中にも多く見られる。しかしながら、書き入れについては、内容の解説と共に、その真贋についても、極めて慎重に判断する必要がある。これについては、後日分析を試みたい。

### 3.2. 蔵書印影

新渡戸図書には自筆の署名や多くの書き入れのほかに、様々な蔵書印が捺印されている。図書に捺されている蔵書印は全部で 12 種類ある。印影には認印程度の大きさのものもあるが、書籍に捺されていることでそれを蔵書印と判断した。以下の表 4、5 に示した表は、それら蔵書印の画像とともに、その色、型式、大きさ、そして捺印回数を示している。

表 4. 蔵書印 (印影)

1		5		9	
2		6		10	
3		7		11	
4		8		12	

蔵書印は全体の 96.6%である 286 点の書籍の標題紙、またその前後の頁に見られ、単独で捺されている場合もあれば、1 頁に数種類が捺されている場合もある。新渡戸図書に見られる蔵書印のうち、最も多く使用されていたのは六角形の枠内に「新渡戸図書」と彫られた印 (印影 1) で、蔵書印の捺されている書籍の 79.3%にこの印影が確認できる。続い

て、自筆の署名を模写したと思われる英文筆記体のもの (印影 2) が 24.4%を占めている。

表 5. 蔵書印 (印記など)

No.	印記	色	型式	大きさ (cm)	捺印回数
1	新渡戸図書	朱	六角形	3.3×2.2	227
2	Nitobe	朱	楕円形	1.9×2.4	70
3	東京市小石川区 小日向臺町一ノ七ノ五 新渡戸	朱	四角形	3.0×2.1	26
4	新渡戸図書 LIBRARY OF INAZO & MARY NITOBE●	紺	丸型	Φ3.4	12
5	新渡戸章	朱	四角形	2.2×2.2	11
6	新渡戸文庫	朱	丸型	Φ3.0	5
7	OTA * INAZO *	赤	丸型	Φ2.0	3
8	にとべ 新渡戸稲造	朱	縦書一行	3.9×0.7	2
9	新渡戸	朱	八角形	1.8×1.2	1
10	INAZO NITOBE SPPORO	紫	横書二行	1.4×4.1	1
11	SAPORO NITOBE * MARY * INAZO *	紺	丸型	Φ2.8	1
12	にとべ	紺	楕円形	1.1×0.8	1

ところで、蔵書印の中には札幌という地名 (印影 10・11) や「東京市小石川区小日向臺町」 (印影 3) と住所が彫られているもの、夫人メアリーの名前が伴に刻まれているもの (印影 4・11)、そして新渡戸が叔父の養子であった時期に使用したと思われる太田姓のもの (印影 7) があり、これらの印の使用時期はある程度限定することが出来る。また、1 冊だけであるが、「臨時臺灣糖務局之印」が捺されている図書があった。臨時台湾糖務局は、日清戦争後、日本が台湾を統治していた明治 35 (1902) 年から 10 年間の計画で設置された糖業奨励を目的とした特別機関であり、次に示すように、明治 34 (1901) 年 9 月に新渡戸により提出された『糖業改良意見書』を踏まえて設立された。

前掲糖業奨励規則の發布に次で之が執行の特設機関として、同月十七日勅令を以て臨時臺灣糖務局官制の發布を見た。而して糖務局は大體十年計畫で、五年を以て甘蔗農業、十年を以て製糖事業全部の改善に一段落を告げしむるといふ新渡戸博士の豫想に立脚するもので、官制第一條に於て臨時臺灣糖務局は臺灣總督の管理に屬し甘蔗耕作及砂糖製造の

改良及奨励に關する事務を掌理すと冒頭し。(以下略)<sup>15</sup>

ここにあるように 10 年という期間限定で計画されたこの特別機関の局長には、明治 35 (1902) 年 6 月から 37 (1904) 年 6 月まで新渡戸が就任している。新渡戸の任務が 2 年程度であったことを考えると、この印が捺された図書もまた、この期間に入手したと考えるのが自然である。

### 3.3. 蔵書印についての考察

このように、新渡戸はさまざまな蔵書印を有していたようであり、さらには一つの頁に数種類の蔵書印が複数押されているものもある。以下、この複数の蔵書印から読み取れることを述べる。

新渡戸図書の中にドイツ語の合冊本があり、その刊行年は 1886 年、標題紙には新渡戸本人の筆跡で「Berlin. i.4.1889」とある。この図書の標題紙に捺印されている蔵書印は 3 種類、「OTA INAZO」(印影 7) と「新渡戸図書 LIBRARY OF INAZO & MARY NITOBÉ」(印影 4) と「東京市小石川区小日向臺町」(印影 3) である。1889 年 4 月は新渡戸の長兄七郎が亡くなった時期であり、この直後に、彼は家を継ぐために太田姓から新渡戸姓にもどっている。新渡戸がメアリーと結婚するのはこの 2 年後の出来事であった。

太田姓の印(印影 7) は新渡戸がこの本を手に入れた 1889 年に捺されたものであろう。しかし、メアリーの名前が刻まれた印を捺したのは 1891 年以降のことであるはずである。さらに、小石川に新渡戸が住んでいた<sup>16</sup>のは 1904 (明治 37) 年から 1933 (昭和 8) 年であったことを考えると、「小石川」の住所が刻まれた印(印影 3) は早くとも、入手から 15 年

経過してから捺されたと考えなければならない。つまり、ここに捺印されている 3 種類の蔵書印はすべてが全く異なる時期に捺されたと考えられる。

新刊の書物(英独等の)は月々に幾種となく刊行される。僕は到底之を精読するだけの余暇がない。それ故に、此等の書物はザツト考へなしに一と通り読んで行く。而して是はと思ふ様な点に行くとき符号をつけて置く。符号をつけて置いた處は、後になつて再び読み返す。読み放しでは、全体を記憶することが出来ぬ。肝腎な一部分さへも忘れて了ふことがある。かうして要点だけに符号をつけ、後に再読すれば、其書物中の要点は永く記憶に留まる。<sup>17</sup>

これは後年の新渡戸が雑誌『実業之日本』に発表した読書法の一部である。新渡戸は自分の読書法が多読であり「早読」<sup>18</sup>であったことを明かしている。そして引用箇所にあるように、多くの蔵書を持ち、重要だと思われた部分は何度も読み返したようである。しかし、多くの図書を蔵していた新渡戸にとって、いくら心に残った箇所であっても、同じ図書の該当の箇所を再び探すのは容易なことではなかつただろう。

新渡戸は図書を再読する場合に、改めて蔵書印を、しかも前回とは異なった蔵書印を捺したのではなかろうか。蔵書印の多さは、何度も読み返した証拠であり、つまり新渡戸にとって重要な図書と言える。標題紙さえ確認すれば、捺されている蔵書印の数により、それが自分にとって重要な本かどうかは即座に理解出来たのである。さらに蔵書印を時期で使い分けていたのであれば、過去にいつ読んだのか見分けることも出来ただろう。

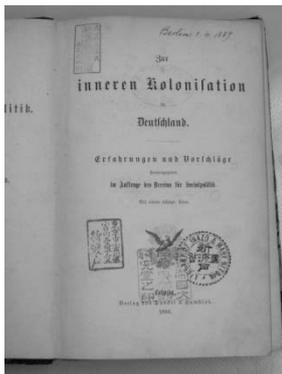


写真 4. 書き入れと三種類の蔵書印

#### 4. おわりに

本稿では、これまであまり知られていなかった東京大学所蔵新渡戸稲造旧蔵書の概要とその特徴、特に署名と書き入れ、そして蔵書印について検討した。今回の考察で判ったことは次の通りである。

- ・新渡戸図書の本文言語は、全体の7割以上が英語で、残りの3割弱についてはドイツ語とフランス語、そしてイタリア語であり、東京大学経済学図書館の洋書主題分類表に拠ると植民地関連の図書が全体の半分以上を占める。
- ・新渡戸図書の刊行年の推移を参照すると、1900年以降の刊行年の図書が多い。
- ・書き入れのある図書を確認すると、新渡戸が近刊本を2年以内の比較的早い時期

に入手している傾向がみられた。

- ・新渡戸図書では概ね標題紙、もしくはその前後の頁に、署名、書き入れ、蔵書印が残されているものがあり、署名のある図書は全体の21.2%、何らかの書き入れのある図書は34.1%、蔵書印が捺されているものは全体の96.6%を占めている。
- ・蔵書印については、1頁に複数印が捺されている場合がある。これはおそらく新渡戸の読書法が関係していると考えられる。

このように、本稿では新渡戸図書の幾つかの特色に触れたが、これは本コレクションの魅力の一端でしかない。農学や国際経済学、そして教育や文学などの分野で幅広く活躍した新渡戸本人と同様に、当該コレクションもまた非常に多彩な内容を持つものであり、植民政策学という学問分野や新渡戸稲造本人を知るためだけでなく、当時の書籍のあり方やその流通を知る上でも多くの情報を与えてくれる。今後、本コレクションが各専門領域において活用されることを期待したい。

(したら まい:東京大学大学院経済学研究科  
学術支援職員・経済学部資料室員)

<sup>1</sup> 『東京大学百年史 部局史一 経済学部』経済学部部局史編纂委員会 1986.12, p.41-42.

<sup>2</sup> 矢内原忠雄は『中央公論』に発表した記事を巡って昭和12(1937)年に大学を辞任、昭和20(1945)年に復帰している(いわゆる矢内原筆禍事件である)。その間講義の担当を行ったのは、昭和13(1938)年は永雄策郎、昭和14(1939)年からは農学部東畑精一であった。(「第二部 経済学各分野の発展 一二 国際経済」『東京大学経済学部五十年史』東京大学経済学部編 1976.3, p.465-467.)

<sup>3</sup> 川田侃「植民政策論の先駆者としての博士」『新渡戸稲造全集』別巻2 教文館, p.284-285, 2001.11

<sup>4</sup> この時贈られた旧蔵書(現在はアダム・スミス文庫として貴重図書に指定されている)は、その後関東大震災と第二次世界大戦時における爆撃の両方から無事に逃れて、現在に至っている。

<sup>5</sup> 北海道大学附属図書館閲覧課編『新渡戸文庫目録』1970.5

- 
- <sup>6</sup> 東京女子大学図書館編『東京女子大学図書館所蔵 新渡戸稲造記念文庫目録』1992.3
- <sup>7</sup> 具体的な登録番号は No.2239~2789 (大正 13 (1924) 年 3 月 31 日付登記分)、No.4919~4946 (同年 12 月 15 日付登記分) である。また原簿の各冒頭頁の左端には、鉛筆による小さな文字で「寄贈 ニトベ」や「ニトベ」とメモ書きされている。
- <sup>8</sup> この 2 冊については、2011 年 12 月、総合図書館から経済学図書館へ返却され、それによって、当時の受入台帳に記録されている 283 冊のうち、現存が確認されている 281 冊全てが、経済学部資料室に配置されることとなった。
- <sup>9</sup> 新渡戸稲造旧蔵書は、東京大学 OPAC では所蔵表示の文庫区分欄に「新渡戸図書」と表示される。また OPAC の詳細検索画面において、文庫区分のドロップダウンリストから「新渡戸図書」を選択することで、全資料をブラウジングすることができる。
- <sup>10</sup> 筆者は現在東京大学経済学部資料室で資料の修理と保存に携わる職員として、新渡戸図書がこれまでどのように扱われ、現在どのような状態にあるのか、さらには今後の管理をどうすべきかについて、検討を行っている。本稿では触れなかったが、今後、モノとして扱う資料保存の観点から新渡戸図書の調査を進めるためにも、この刊行年データの把握は必須であると思われる。
- <sup>11</sup> 本表は東京大学経済学図書館の洋書分類表をもとに作成した。
- <sup>12</sup> 既に合冊されているものを考慮して、表 1~3 については、登録番号を付与されているものを 1 点としてカウントした総点数 296 点を基準とした。
- <sup>13</sup> 「僕が前年仏国に滞留して、教師を雇ひ仏蘭西語を練習してみた頃、農政に関する西班牙の書を手し、之を読まうとしたが、僕は西班牙語に不案内であつた」(「自警」『新渡戸稲造全集』第 7 卷, 教文館, 1970, p.546、初出は實業之日本社 1916 年。)
- <sup>14</sup> 大内兵衛「このごろの読書」『私の読書法』岩波書店, 1960, p.55.
- <sup>15</sup> 『臺灣糖業概観』臺灣總督府殖産局特産課 1927.5, p.26.
- <sup>16</sup> 新渡戸稲造旧居跡 (通称ニトベ・ハウス) は現在東京都文京区教育委員会の指定による文化財となっている。
- <sup>17</sup> 「修養」『新渡戸稲造全集』第 7 卷, 教文館, p.218、初出は實業之日本社 1911 年
- <sup>18</sup> 「僕は不幸にして (?) 多読したので、自然に早読の習慣を養ひ、大抵細く組んだ外国語の書物でも、一頁二分か五分位あれば、読むで大体の意味を知ることができる。五号活字の四六半截形の英書であれば、二分間で読むことは少しも困難でない」とある。(「修養」『新渡戸稲造全集』第 7 卷, 教文館, p.214、初出は實業之日本社 1911 年。)